蓬原熊野神社の神舞

【所 在 地】志布志市有明町蓬原(蓬原熊野神社神舞保存会)

【種 別】県指定無形民俗文化財

【指定年月日】昭和54年3月14日



有明町蓬原の熊野神社に伝わる神舞は,今もなお33番(33種目)の舞いを伝えており, 舞庭の荘厳(飾りつけ)も詳細に伝承されていて注目される。

まず舞庭は3間(5.4m)×3間の広さにしめ縄で仕切り,その一方に鳥居をたてて花道をつける。鳥居の対面には神棚をつけ,そのそばに 11m 余のデフ柱(大法幣柱)を立てる。デフ柱の頂きには幣串・扇などを飾りつける。正面に向って左側にビャッケ(白蓋)という大きな笠状のものをさげ,そのそばに紙張りの鳥をさげる。

舞は,一番舞,幣舞,地割,山舞,宇治,矢抜,幣抜,踏剣.....と続き,日向系統のものが多いが,中には箕舞や田の神舞など南九州独特の舞もある。

全体が洗練された格調高い舞で、鹿児島県内でもっともたくさんの種目を伝承している。